５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.554-555
長福寺の大径木をウインチを使って搬出しました

【定例活動報告】草莽荘（そうもうそう）の森

冬季オリンピック北京大会が始まった。日本選手は、スノーボード、スピードスケート、スキーノーマルヒルジャンプでの金メダルを期待している。

第１日曜日の今日は朝から好天で、久しぶり，仁藤君がくるので、活動場所である長福寺の寺社林で伐採して長期間積み残していた長径木丸太を山中から引き出し、軽トラに積載する作業をメインに取り組んだ。特に経路に並行する沢に滑り落ちないように経路の上を通した後、沢から車道に引き上げる大作業に中学生の皆さんの意見や工夫が功を奏し軽トラに乗せ製材所に運ぶことができた。

第６波オミクロン株では感染力の極めて強い感染力の中にあり、神奈川県は蔓延防止期間１か月目である。３度目のコロナワクチンを終了した人も

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

増えてきた。

第３日曜日は、雨の天気予報のなか、どんよりした曇り空の中で始まった。今日は試験もあるが親より参加を拒む雰囲気の中、参加者も少なかった。午後からタケノコ収穫を前に、相模湖畔の草莽荘周りの孟宗竹の伐採を皆で行いました。

気温も下がり寒いので、草莽荘の囲炉裏に火を入れ、千木良の「なかみせ」で焼き鳥串を買ってきて焼き鳥を皆で美味しく頂き楽しい時間を過ごした。こちらは、石井さんの大工技術で、民家解体端材やサッシ等を起用に組み、快適な居住空間を作ってくれたお陰である。

嵐山の基地を離れて二年になるが、次なる基地として皆様に喜んで使って頂けるような集合場所になれば良いと考えている。

小林照夫（本会、理事）

【定例活動報告】
知足の森

第１日曜日はお寺の隣の森に置かれていた、丸太を運び出しました。まず、周辺の笹などを刈り取り、丸太まわりに邪魔なものがないようにし、その後丸太をチェンソーを使いトラックに乗る大きさまでカットしました。その後、ワイヤーをかけ、巻き取ることで、丸太を動かしました。いつもより遥かに大きな木で、断面は私の顔より大きく、年輪も数えきれないほどでした。終わりの方で、先生たちが重さを計算していましたが、300kgは超えていたでしょう。大きい木からは、力強さが感じ取れ、今回の作業に参加したからしれたこその発見であったと思います。午後は竹林の方へ行き、竹の伐採を行いました。竹には親竹というのがあり、名前の通り根茎で繋がる竹の親、中心だそうです。そして、その竹の周りには他の竹は生えていないため見分けて、親竹を残して伐採をしました。竹を切るのは今回が初めてではないですが、親竹など初めて知ることがたくさんありました。

山田　ひとみ（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

第３日曜日は午前と午後に分けてふたつの場所で活動を行いました。午前は普段通り寺の裏山での活動だったのですが、私は森での活動の紹介ビデオの作成のための撮影班としても活動しました。森の魅力がどうすれば伝わるのかとアングルなどを事前に考えていたのですがやはり、想定通りに行くことはあまりなかったです。しかし、とても楽しんで有意義な撮影を行えたと感じます。また、お昼には雨がパラついていたり気温が低かったりしていたため住職さんが緑茶を差し入れて下さいました。とても暖かく、冷えたからだには有難いものでした。午後は別の森に移動し、竹を伐採したり薪を割ったり、別の森の方と炭火で焼き鳥をしたりととても充実した活動を行えました。私は薪割りを主に行ったのですが、性にあっていたらしく時間も忘れて割っていました。薪を割るというのは初めての体験で不安もありましたが、やってみると思いのほか楽しんで行えました。囲炉裏を囲うという出来そうでなかなか出来ない体験もできて、とても楽しかったです。

坂田　早帆（GREEN TECH ENGINEER LAB　中学２年）

桜井尚武の森のコラム

「ユズリハ（*Daphniphyllum macropodum*）とヒメユズリハ（*D. teijsmannii*）」

図1　ユズリハ

20071115 日大構内藤沢

図2　新芽と雄花

20190405 六義園

図3　果実

20211202 汐入公園南千住

図4　ヒメユズリハ

20060701 下田

福島県以西の本州と四国、九州の海岸に近い丘陵地や山地に分布する10m以上になる常緑高木で、中国と朝鮮南部にも分布します。葉身は長さ20cm、幅4-6cmの長楕円形で先は尖り赤味を帯びた葉柄は5cm内外と長い。葉は互生ですが当年枝の先端部に輪生状に集って着くのが目立ちます（図1）。

雌雄異株で4-5頃に新葉と花が同時に展開します（図2）。新葉が開き終わる頃旧葉が徐々に落葉して新しい葉が全体を覆うようになります。これに着目して、新しい葉と旧い葉がスムーズに入れ替わるこの種は縁起がいい樹木とされました。つまり、代替わりが順調に行われることは家が代々滞りなく続く祝うべきことを象徴するものとして、ユズリハという名が付けられたのでしょう。また、大型の葉は鮮やかな緑を呈し、赤い葉柄が目立つことから珍重されたようで庭木や記念樹に使われて各所で見られます。しかし、山野では滅多に出会わない目立たない木だと思います。

晩秋には黒熟した多数の果実をつけます（図3）。樹木総体にアルカイド系の有毒成分を含み、過去に家畜の誤食事例があったそうですが、晩秋から冬にかけてはある種の鳥の餌になっているようです。厚い葉を持つ本種は防火樹としても有用という記述がありました。

ユズリハに近い種にヒメユズリハ(*D. teijsmannii*)があります。本種の分布範囲はユズリハと同じですが、より海浜に近い所に多く見られます。樹高はこれも10mに達する常緑高木で葉はユズリハに似ますがより小さく、裏面は白色を帯びない、側脈の数がユズリハが10-19対あるのに対し8-10対と少ない、葉が垂れないなどで区別できます。潮風にも強い海浜植物の特徴として植え替えにも強いので有用な園芸材料です。北海道から本州中北部に分布する変種のエゾユズリハ(*D. Macropodum var. humile*) は樹高1m内外の低木で幹が多雪地方に適応した匍匐性です。

桜井　尚武（本会、会員）

【事務局から】

２月になりオミクロン株の猛威は収まらず、一方で、オンラインを使った活動も定着しつつあります。今月は相模原市のSDGsアワードの受賞団体による活動紹介と交流を目的としたオンラインシンポジウムに参加させていただきました。相模原市のウェブにはまだ公開されていませんが当日の録画はこちらからご覧いただけます（https://www.youtube.com/watch?v=eeVVHjtJ6nQ）、右のQRコードより直接ご覧いただくこともできます。

その後、こちらも例年は４０名近くが実際に森に入り実習を行ってもらってきていた東海大高輪台高校SSHについてもオンラインにて対応させていただきました。事前学習を行ったのち、実習日には、桜井先生、小林さん、粟田さん、宮村で４つのブレイクアウトルームで森の講義をさせていただきました。私はせっかくなので森から中継形式で行い、少しは雰囲気をつかんでもらえたら、と思います。今年は森を研究テーマに、という高校生さんもいるということで３月以降の定例に参加してもらえそうです。宮村　連理（本会、副理事長）

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン